

水 稻 新 品 種 「 サ カ エ モ チ 」 に つ い て

橘高昭雄・内山田博士・新村善弘・向井 康・上野貞一・衛藤信男・轟 篤
(宮崎県総合農業試験場)

KITSUTAKA, A., UCHIYAMADA, H., SHINMURA, Y.,
MUKAI, Y., UENO, S., ETO, N. and TODOROKI, A.
A New Rice Variety "SAKAEMOCHI"

水稻南海糯51号は、昭和49年から佐賀県で奨励品種に採用され、通称名を「サカエモチ」として普及に移されることになったので、育成経過と特性の概要をのべて参考に供したい。

来歴ならびに育成経過

サカエモチは昭和38年宮崎県総合農業試験場において、関東糯64号(マンゲツモチ)を母、ホウヨクを父として人工交配を行ない、翌年 F₁ と F₂ を養成し、昭和40年 F₃ で個体選抜を行ない、以後系統育成種法によって選抜固定をはかってきた。昭和44年より「南海糯51号」の系統名で関係県に配付して、地方的適否を確かめてきたもので、昭和49年 F₁₂ で水稻農林糯 234号に登録、通称名をサカエモチと命名された。

特 性 の 概 要

1. 形態的特性: 稈長はナンゴクモチより5~6cm短かく、ヒヨクモチよりやや長く、穂長は両者の中間で、穂数は同程度の短稈穂数型の糯種である。短芒があり、稈色は黄白、稈先色は紅である。粒着は中、脱粒性は易。玄米は中粒で乳白色を呈し米質はよく、餅質はきめが細かく、粘りがあり食味も良好である。草姿はナンゴクモチより葉身が立ち、熟色も良好である。

2. 生態的特性: 出穂および成熟期はナンゴクモチやレイホウより3~4日おそい晩生種である。耐倒伏性はきわめて強く、梗の最強品種に匹敵する。生産力は高くヒヨクモチ並である。いもち病に対しては耐病遺伝子 Pi-k をもち、これを侵す菌系に対するほ場抵抗性は葉いもち病にはツキモチ、ムツシキ並かやや強く、穂いもち病には農林22号にまさり中~やや強である。白葉枯病には1群菌に対しては抵抗性を示し、レイホウ、ナンゴクモチ並で、これを侵す菌系に対してはこれらにまさり中~中強で、フクサモチよりかなり強い。紋枯病には中、縮葉枯病および萎縮病には弱い。わい化病にはミズホには劣るが、発病が少なく、レイホウよりはるかに強い。

適地および奨励品種採用県

レイホウ、ツクシバレが栽培されている佐賀県の平垣

一 般 特 性

形 質	品 種 名	サカエモチ	ナンゴクモチ	ヒヨクモチ
出 穂 期 (月日)		9. 5	9. 2	9. 1
程 長 (cm)		76	83	72
穂 長 (")		20.1	21.4	19.0
穂 数 (本/m ²)		356	364	357
芒の有無・長短		少・短	稀・短	少・中
稈 色		黄 白	黄 白	黄 白
稈 先 色		紅	白	紅
脱 粒 性		易	やや難	易
倒 伏 抵 抗 性		極 強	強	極 強
葉いもち病抵抗性	N	極 強	やや強	やや弱
	C	中	中	〃
穂いもち病抵抗性		やや強	やや強	やや強
白葉枯病抵抗性	I	強	やや強	強
	II	中~やや強	中~やや弱	中
アール当玄米重(kg)		46.3	42.0	44.0
玄米千粒重(g)		21.4	21.0	22.6
玄米品質		中上~上下	中上~上下	中 上
餅 質		良	良	やや良

調査地 宮崎県総合農試(昭和42~48年の7ヵ年平均
ヒヨクモチは47, 48年の平均)

部に適する。佐賀県では多収で米質がよく、餅質もよいので餅用として、また晩生のためレイホウとの自然交雑に起因する精品質の低下を回避できるとして、約1,500haの普及が見込まれている。

栽 培 上 の 注 意

熟期がおそいので、山間高冷地への導入は不適である。強稈で耐肥性も高いので、栽培法はレイホウに準じてよい。いもち病についてはC菌の発生消長に注意し、多発年次には防除に留意する。白葉枯病にはレイホウが発病する地帯では防除に留意する。

命 名 の 由 来

採用県の佐賀県の語源サカエノクニと、本品種の普及により農家が栄えることを意味する。